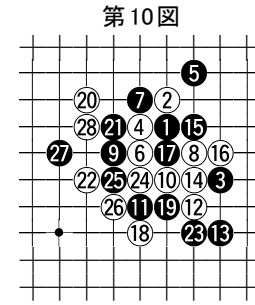


遊星ガイド (2)

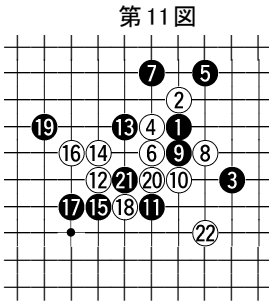
九段 河村典彦

【第10図】譜の白4も、白勝ちといわれているようだ。本当にそうなのか確認していこう。まずは黒5と叩く手が有力だが、かなり黒3から離れている。白は当然6とこちらの方面に打つことになる。次に7と引かれてはかなわないので、黒7から9は自然だろう。白10と組めてはかなり良さそうだが、ここで攻めが失敗すると逆に苦しくなる。白10で連が2つできるので、1つは残ることにする。

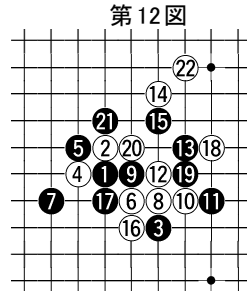


めとなるし、11を12でも白11と引ければ何とかなるだろう。

【第11図】黒7と変化する手も考えられる。対して白は同様に8、10と打つのが良いだろう。第10図と違うところは、うっかりすると黒に呼手を打たれてしまうことである。そこで白はスピード早く白12と打っておく。黒13には追い勝ちのけん制とともに白14とさらに密集する。ここで縦の連を止めないと三々禁が落ちているので、黒15とこちらの連を止めるのがほぼ絶対となる。ここで白16と四々をミセ

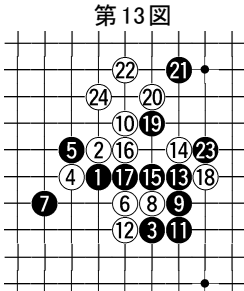


【第12図】黒5のトビ三は花月切違いに戻るのだが、花月ではこの形は打てないとされている。ということは遊星からも打てないことになる。その理由を調べていこう。



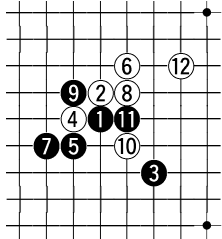
【第13図】黒9の変化。この手には白10と突き出しておく。黒11は9とのコンビネーションでノリ手にする狙いがある。だが、交換に白も12と固まることができる。黒13、15はノリ手を利かした防ぎなのだが、白18まで処理しておく。こうすれば白10の突き出しが生きてくる。白20から22が気持ちの良い展開で、白24まで下辺の白と連携することができる。黒11で他の手も、白22や24の好点が残っており、黒防ぎきるのは難しいだろう。

【第14図】黒5の変化。この防ぎも有力だ。対して白は6と引いて



【第14図】黒5の変化。この防ぎも有力だ。対して白は6と引いて

第14図

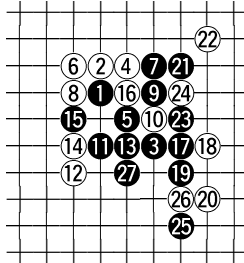


珠に対し白勝ちができるだろう。

【第15図】続いて白4の防ぎに移ろう。白4は流星と共通形だが、流星からこの形にする人はこれまでのルールならばいなかっただろう。まず調べなければいけないのは、黒5の三引きが成立するかどうかである。

8と組む。これで黒の三々禁も狙っているのが白の自慢である。黒9から11はやむを得ないだろうが、白12で黒の引き筋をけん制しておけば良い。例えば白12ぐらいでもいいだろう。黒その他の防ぎはさすがに無理だろうから、このぐらい調べておけば、この五

第15図

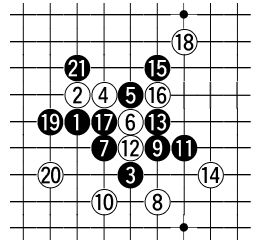


結論から言うと成立する。黒7までに対し、防ぎに行くのは黒がその外側から押さえられるので、当然白は8と固まるのが強防である。これに対しては黒9から引いていくのが肝心である。これをうっかり10から引いてしまうと、白に9と止められて逆に手が出なくなる。

黒11、13は白に先手で止められるだけに怖いのが、黒15と止めて四追いが残っている。白16には黒17から一気の四追いがある。白16で17なら、当然黒16と止めて黒勝ちとなる。白14を反対なら、14、16で黒勝ちとなる。

【第16図】続いて黒5の叩きも有力に見える。こうなると3と5の

第16図

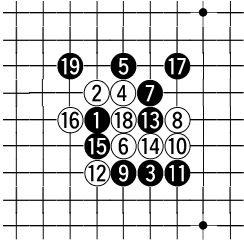


位置はさほど離れていない。黒の引き筋があるので、白はどちらかを止める必要がある。白6なら、黒7、9の組み立ても当然ながらいい感じだ。白10で下辺に強力なラインができるが、黒11から打ち出すのもつといい感じになる。黒15に続き黒17とここに一着入れるのが急所である。上下どちらに止めても

黒の攻めが見込まれる。白18に止めるなら、黒19の突き出しがすこぶるいい所だ。黒21で上下がつながってくる。

【第17図】この4には三か所目以降が難しい。この5は実は溪月峡月に戻っており、黒が打てない訳でもない。うっかり白6で三を引くと、黒の注文に嵌まる（と言っても黒勝ちになるとは断言できないが）。白は結局、6と我慢するぐらいだろ。ここからの黒の打ち方はいろいろあるが、黒7と押さえるのが普通だろう。その他、8と打っておくのもありそうだが、白8には黒9と押さえてじっくりした展開に持ち込んでいく。対して白10なら、黒11と引けるのが大きい。黒15まで打って様子を見た後、白16なら黒17、

第17図



19と外側から叩く展開になる。その他、黒5を18で名月に、13で流星（もどきに）戻る手もあるので、案外題数は多く出せそうだ。